

イワシ類シラスの漁場形成に関する研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 外部資金 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 岡田裕史

【研究の背景とねらい】

- ・シラスの漁場形成要因を解明するために、水揚統計資料の収集や太平洋沿岸の卵稚仔の分布、海況変動等を把握し、シラス漁況の変動特性を検討しました。

【これまでに得られた成果】

(2024 年度の状況)

- ・2024 年度漁期 (2024 年 3 月～2025 年 1 月) の主要 6 港 (静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居) における総水揚量は 2,096 トンで、前年 (2,574 トン) の 81%、過去 5 年平均 (以下、平年) (4,330 トン) の 48%となり、1975 年以降最も少なくなりました (図 1)。
- ・月別の漁獲量は、1 月以外は平年を下回りました。推移をみると、3 月から 4 月にかけて増加しましたが、その後 8 月にかけて減少しました。9 月にかけては増加しましたが、その後は減少傾向で推移し、1 月 14 日に漁期が終了しました。
- ・魚種別の漁獲状況について、カタクチイワシのシラスは漁期を通じて漁獲され、4 月に最も水揚量が多くなりました。マイワシのシラスは 4～5 月に漁獲され、4 月に最も水揚量が多くなりました。ウルメイワシのシラスは 3～5 月、1 月に漁獲され、5 月に最も水揚量が多くなりました (図 3)。
- ・シラスの漁獲状況について、2024 年 7 月 8 月は平年並、2025 年 3～5 月は低調と予測するとともに、調査船による漁場加入前の卵稚仔の分布状況を調査し、これらの結果を漁業者や加工業者に情報提供しました (しらす情報 14 回、会議研修 9 回)。



図 1 県内主要 6 港における漁期年別水揚量

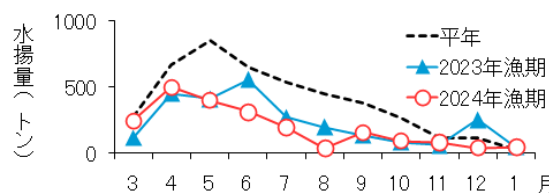


図 2 県内主要 6 港における月別水揚量の推移

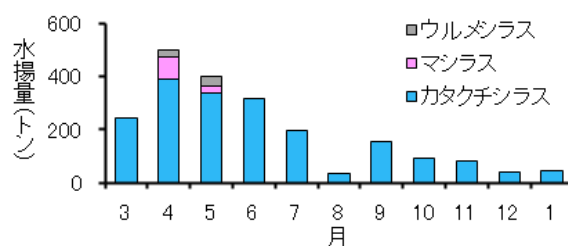


図 3 県内主要 6 港における月別魚種別水揚量の推移

【期待される成果】

- ・シラス漁場形成の要因が解明され、高精度の漁況予測が可能になります。これにより漁業者は計画的な操業が、加工業者は計画的な出荷が可能となります。

【今後の計画】

- ・シラス漁況と卵稚仔の分布、海況変動等との関係を明らかにし、シラス漁況の高精度な予測手法を確立します。また、卵稚仔の分布状況を引き続き情報提供を行います。

(作成 2025 年 4 月)